

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームぼらん千厩（シグナル）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900116		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームぼらん千厩（シグナル）		
所在地	〒029-3401 岩手県一関市千厩町千厩字前田229番地		
自己評価作成日	令和5年10月11日	評価結果市町村受理日	令和6年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して13年が経過しましたが「入居者が主人公」という考えは変わらず、毎日安心して過ごして頂けるよう、プライバシーと尊厳を守りながら質の高いサービスの提供に努めています。代表者は、各職員の適性に合った研修会への参加や資格試験の受験を促すなどして、キャリアアップの啓発を継続的に行っています。また、育児中の女性職員には時間短縮、その他勤務内容に制限がある職員に対しては、様々な条件を受け入れるための職場環境の整備および意欲向上に対する支援に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市民センターや体育館等にも近い千厩町の中心部にあり、家族等の訪問や面会等で交通等に不便を感じない2ユニットの事業所である。職員は経験豊かで介護のスキルや利用者からの信頼感も高く、日々、質の高いサービスの提供が実践されている。家族や地元企業などからのお裾分けもあり、コロナ禍とはいえ地域との交流も絶えることがなく、理念に沿った介護が継続して提供されている。未だコロナ禍で様々な制約はあるものの、可能な限り馴染みのイベントへの参加や車による外出支援などを行うべく工夫をしている。今後、対面による運営推進会議や家族との直接の面会をいつ、どのように行ったら良いのか模索しているところである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームぼらん千厩 (シグナル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内やネームプレートの裏面に明示して、常に職員間で共有しながら実践に努めている。	開設当初に職員が話し合い定めた介護理念(6項目)を継承している。各職員は理念を記した印刷物をネームプレートに入れて常に携帯し、毎月のミーティングでも皆で音読するなど、日々のサービス支援のあり方の目安として常に意識して介護に努めている。	理念に示される六つの項目の中から、毎月や半年ごとなどに、特に意識力を入れて取り組む項目を定めてケアに当たることにより、更なる理念の意識づけを進めることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前までは、地域ボランティアの方が定期的に踊りの慰問にいらしたが、現在は挨拶をする程度となっている。落ち着いたらまた、来ていただけよう努めたい。	現在は、ボランティア活動そのものが中止されているほか、近隣の運営推進会議委員との接触もない。コロナやインフルエンザの状況を見ながら、地域のボランティアの来訪など、以前のようない日常を取り戻したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト養成研修を受講した職員が在籍しており、認知症の方の理解や支援の方法を地域や近隣の方々に伝えられる状態にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍前までは、2カ月に1回開催していたが、現在は議事録に日々の活動状況などを記載し書面で報告している。	コロナ禍もあってこの数年間は、対面での会議は行われず、書面報告に留まっている。委員からの報告に対する意見なども無く、地域との付き合い方や内容、多世代との幅広い交流など、会議の活用が思うように出来ていない。管理者はどのタイミングで行うか思案している。	コロナ禍の状況に十分留意しながら、会議メンバーの見直しや開催場所を含め、対面形式での開催を検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは電話連絡だけでなく、必要時には足を運び、連携を図れるよう努めている。	市の担当者とは、利用者の要介護認定申請手続きや成年後見制度利用などで事業所職員が窓口に行った際、直接助言をいただいている。生活保護、防災関係でも情報を共有することにより、良好な協力・連携の関係が形成されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の手引きを職員が閲覧できるようにしている。転倒防止回避のため、ご家族様と相談し了承を得たうえでベッド柵を使用しているが、監視的対応にならないよう気をつけている。	指針に基づき適正化委員会を3カ月に1回開催している。特にもスピーチロックには注意しており、言葉遣いが乱暴に捉えられる場合には、直ちに職員同士で注意し合えるようにすることが大切と意識している。無断で出かけてしまう利用者があったことから、家族に説明して「玄関チャイム」を設置している。夜間は防犯のため施錠している。	

事業所名 : グループホームぼらん千厩 (シグナル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく、心の虐待にならないよう職員一人ひとりが考えながら支援している。また、定期的に勉強会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	姉妹ホームで利用されている成年後見制度や「まもりーぶ」についての情報を収集し、利用者様が必要になった際は支援できるよう備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては事前に契約書と重要事項説明書をお渡しした上で、当日改めて説明している。不明な点がある場合はその場で説明し、ご理解いただいて不安なくご利用できるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際には利用者様の様子をお伝えし、意見や要望などをお聞きしている。ご家族様の思いや要望は記録に残している。	日頃の状況を写真を添えて担当職員から家族に手紙を届けている。家族が来訪する機会も多く、時間制限しながら玄関での窓越しに面会している。コロナ禍も5類に移行し、もう直接会っても良いのではないかとこの意見をいただくことがあるが、法人本部からの了解が無く、周辺施設の状況を情報収集している段階である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から早急に対応が必要な提案や意見は、管理者を通じて代表者に報告している。	毎日の引継ぎや毎月のミーティング等の際に、様々な意見が出され個別に検討している。「研修を受けたい」との要望については、Webを活用して複数職員の研修を行った。個別面談による職員の意見・要望を法人に伝えているが、内容によっては回答に時間を要しているものもあり、職員の気持ちを考え気がかりに思っているとのことである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の女性職員の時間短縮や体調面を考慮し、働きやすい職場環境を整えるよう努めている。		

事業所名 : グループホームぼらん千厩 (シグナル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々の適性に合わせ、外部研修への積極的な参加を促している。職員がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用も補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍が落ち着いてきたら市が主催する研修会へ積極的に参加して他施設との交流を図り、サービスの質の向上に努めたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から要望や不安な点などをお聴きし、ホーム内の案内など丁寧に対応することで、利用開始時からより安心してサービスを受けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時からご家族様がどのようなケアを望まれているのかや不安に感じている点なども解消できるよう時間をかけて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議では、代表者、管理者、入居窓口担当者が時間をかけて話し合い、必要なサービスの見極めを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重し、共に心の触れ合える関係を築けるよう努めている。利用者様一人ひとりが役割を持って生活できるよう、有する能力に応じて声掛けし、一緒に生活していることを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方でなかなか面会に来られないご家族様にも毎月、ご本人のベストショットを郵送し、近況を報告している。		

事業所名 : グループホームぼらん千厩 (シグナル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が落ち着いたら、本人が大切にしてきた親戚や友人との関係性が途切れないよう再度、声掛けを行なっていきたい。	コロナ禍であるが、馴染みの美容院を利用する方もあり、送り迎え、予約制で他の客を入れないなどの配慮をいただいている。馴染みである地元のイベントにも様々な配慮をいただいで参加することも出来ている。馴染みが途切れないようドライブにも力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は、利用者様の性格や相性などを考慮している。行事やレク活動を行い、孤立せず交流できるような場を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム外でお会いした際には、声をお掛けしてお互いの近況報告を行行情報交換している。また、野菜などを頂き交流を継続している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情、行動から思いを汲み取り、利用者様が語ったことは記録に残して職員間で共有している。	思いを言葉で伝えることの出来る利用者が多く、出来ない方からは表情や仕草から汲み取っている。自宅でやっていたことを役割としてやってもらうこととしている。農家の方が「畑をやりたい」との希望があり、土地が無いのでプランターでの植栽を行っている。利用者の思いは、タブレットに記録して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や趣味、嗜好などの情報をご家族様に記入して頂き、職員が閲覧し把握できるようにまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄チェック表は24時間の流れに沿って記入し、1日の様子を把握できるようになっている。職員間で記録を共有した上で申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや全体ミーティングなど、利用者様のケアについての話し合いの場を作っている。必要に応じて主治医やご家族様より意見を伺い、調整しながら現状に即したケアプランを作成している。	利用者担当が3カ月毎にモニタリングを行い、6カ月毎に見直しを行っている。毎月のミーティングやケース検討で話し合い、家族の要望や医療機関からの助言も取り入れてプランを作成している。管理者がケアマネを兼ねており、更には2ユニット分を1人で担当している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぼらん千厩 (シグナル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を生活記録や排泄チェック表に記入し、職員間で情報共有して実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の日々の状況、状態に合わせてご家族様や医療機関に報告、相談を行いながら、最善のサービスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が落ち着いたら、また積極的にボランティアも受け入れて地域の方々と交流し楽しい時間を過ごせるように努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様及びご家族様の希望するかかりつけ医を受診している。受診した際には、受診記録に記録し全職員に周知している。	自宅からの入居であることから、これまでのかかりつけ医を受診する利用者が多くなっている。通院は家族の同行を基本としているが、職員が代わることもある。かかりつけ医には日頃の状態を示す「事前報告書」を持参し、受診後には医師の指示等を家族から確認している。訪問看護師の指導や助言を得て、適切な医療を確保している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の些細な状態の変化でも記録に残し、訪問看護師が来訪した際には、身体の様子や経過観察を報告して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍のため利用者様のお見舞いは難しいが、退院時には職員間で情報を共有し、留意事項の確認や状態把握に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぼらん千厩 (シグナル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、ホームでできることを伝えるとともに、状態の変化に応じて区分変更の申請や他施設への申請の意向を確認するなどご家族様と話し合うようにしている。	看取りの指針を策定し、看取りは可能であるものの、現実的に看取り経験が無く、予定もない。介護度が3になった際には、家族等との話し合いで、特養や老健への申し込みを勧めている。看取りを行う場合の医療機関との連携や職員の研修が、まずもって必要であることから、着実な準備に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習や救急時の対応について勉強会を行っている。緊急時の対応は全職員で確認、共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。非常食や緊急時の持ち出し用品の確認も定期的に行っている。	今年2回目の避難訓練(夜間における火災避難訓練)に向けて、消防署との打合せを行っている。緊急連絡網や避難先の確認、見守りとして駆けつけることのできる人員の確保などを検討をしている。食料品や水の備蓄等は出来ているが、発電機の設置については法人本部と協議中である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、声のトーンや場所に合わせた声掛けや言葉を選ぶよう配慮している。また、名前をイニシャルで話すなどプライバシーを保つよう心掛けている。	利用者それぞれ「出来ること」や「したいこと」、「好きなこと」ができるよう、職員が受け止めた利用者の思いを共有して対応している。自分の名前を旧姓で覚えている方もあり、名前にさん付けでお呼びしている。一人一人の尊厳を大事にし、言葉遣いに気を付けている。同性介助に配慮してケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いを表現しやすい雰囲気作りを心掛けている。一方的な押し付けにならないよう声掛けを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望があれば、その日の小ミーティングで話し合い、取り入れられるよう調整して業務の組み立てを行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぼらん千厩 (シグナル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪については、希望や伸び加減を見て馴染みの理・美容室へ行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のお誕生会には希望のメニューを取り入れたりしている。また、季節の野菜、果物などを提供している。	調理員を兼ねる職員が配置され、献立作成から買い出し、調理まで担当している。調理員が不在の場合、その他の職員が調理し、外注はない。行事食、リクエスト食にもできるだけ対応しているが、生ものは事業所内では出していない。利用者は下膳やテーブル拭きなどを手伝っている。家族等からの果物や菓子などの差し入れも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分量は総合チェック表に記載し把握している。嚥むことが困難な利用者様には、キザミ食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い、口腔内の清潔に努めている。ご本人の状態に合わせて声掛けや介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、排泄の間隔を見ながら職員が声掛けしている。昼夜の尿量に応じパッドを変えている。	昼夜ともトイレでの排泄誘導を基本にしている。夜間の定時誘導の3名も日中はトイレを利用している。排泄チェック表で確認し、職員で話し合いながらパット費用節減の工夫にも努め、改善が見られる。新しい入居者で失敗を隠す方がいたが、専用バケツを置くことなどにより落ち着いてきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方は主治医に相談している。排泄チェック表で便周期を確認し、漢方や下剤で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタル測定値とご本人の希望を確認しながら入浴支援している。拒否が強い時には、無理強いをせず時間にずらすなどして対応している。	3日に1回、ユニット別に午前と午後、通院等の状況に応じて入浴の順番を変えるなど、柔軟に対応している。菖蒲湯や柚子湯、リンゴ湯のほか、入浴剤も活用している。スマホで音楽を流したり職員との会話などで長湯になることもある。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぼらん千厩 (シグナル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症の周辺症状がある方には、主治医、ご家族様と相談しながら快眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を全職員が閲覧できるようファイル化し、減薬、増薬があった際にはその都度、申し送っている。内服時には職員2人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力に応じて軽体操などを行っている。ドライブや季節ごとのイベントを定期的に企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ウッドデッキに座り日向ぼっこを行っている。季節の行事では、普段行けないような場所へお花見に出掛けている。	元気な利用者が多いことから、感染症に気を付け、家族の協力も得ながらドライブで外出するよう努めている。近くの公園や室根山、気仙沼まで足を延ばすこともある。事業所においても、プランターによる植栽の水遣りなどのため外へ出る機会が度々あり、また、ウッドデッキに座って外気浴・日向ぼっこを楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っている。職員は定期的に出納帳を記入し、利用者様の所持金を把握するとともに、紛失防止に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があった時や必要に応じて、その都度電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品を廊下に展示したり、日常の写真を定期的に貼り替えている。居心地よく過ごせるよう共有スペースの室温・温度にも気を配っている。	室内は、エアコンによる温度調節で暑さ寒さに困ることは無い。日当たりが良く広い居間にはウッドデッキも併設され行事の際の写真が掲示されるとともに職員と一緒に作った作品やハロウィーンの装飾などの季節のものを掲示し、快適な環境を保っている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぼらん千厩 (シグナル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを設置し、利用者様が自由に過ごせるよう空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にこれまで使い慣れた家具や布団などを持ち込んで頂き、居心地の良い環境で過ごして頂けるよう努めている。	居室にはエアコンやベッド等が備え付けてあり使い慣れた布団やタンス、テレビ、小さな仏壇などが持ち込まれている。壁には家族写真やカレンダー、手作りの作品や時計などの小物が飾られ、自宅と変わらない環境で安心して暮らすことができるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは認識しやすいように表示している。また、浴室内には滑り止めマットや手すりを取り付け、安全に配慮している。		